表 12.1.1-22(1)自動車の走行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)(計画路線の予測)

[単位:ppm]

				予測値(年3	平均値)		日平均値	
番号	予測地点		道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)	の年間 98%値	環境基準
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00014	0.006	0.00614	2	0. 0171	. 1 時間値
2	宮田村大田切	西側	0.00016	0.006	0.00616	3	0. 0171	の1日平
2		東側	0.00016	0.006	0.00616	3	0. 0171	均値が 0.04ppm
3	宮田村大久保	西側	0.00051	0.005	0. 00551	9	0. 0160	から
4	宮田村中越	西側	0.00009	0.005	0. 00509	2	0. 0155	0.06ppm までのゾ
5	伊那市下殿島	西側	0.00053	0.004	0.00453	12	0. 0146	ーン内又
Э	伊加川下殿局	東側	0.00040	0.004	0.00440	9	0. 0144	はそれ以
6	伊那市原新田	西側	0.00070	0.003	0.00370	19	0. 0132	下である こと。
О	17 加川水利田	東側	0.00073	0.003	0.00373	20	0. 0133	-

注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2: 環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日、環境庁告示第38号)による。

表 12.1.1-22(2)自動車の走行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)(計画路線の予測)

[単位:mg/m³]

				予測値(年3	平均値)		日平均値		
番号	予測地点		道路寄与 濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%) **	の年間 2% 除外値	環境基準	
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0. 00001	0.012	0. 01201	0	0. 0327		
2	宮田村大田切	西側	0.00001	0.012	0.01201	0	0. 0327		
2		東側	0.00001	0.012	0. 01201	0	0. 0327	1 時間値	
3	宮田村大久保	西側	0.00003	0.011	0. 01103	0	0. 0306	の1日平 均値が	
4	宮田村中越	西側	0.00001	0.011	0. 01101	0	0. 0306	の。10mg/m ³	
5	伊那市下殿島	西側	0.00002	0.010	0.01002	0	0. 0285	以下であ	
Э	伊州川	東側	0.00002	0.010	0.01002	0	0. 0285	ること。	
G	伊那市原新田	西側	0.00002	0.011	0.01102	0	0. 0306		
6	[J. 物] 冰料] 田 	東側	0.00002	0.011	0.01102	0	0. 0306		

※: 寄与率 0%は、0.5%未満を示す。

注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)による。

表 12.1.1-23(1) 自動車の走行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

(既存道路の影響を考慮した予測)

[単位:ppm]

				予測値(年	平均値)		日平均値		
番号	予測地点		道路寄与濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%)	の年間 98%値	環境基準	
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0. 00054	0.006	0. 00654	8	0. 0175	1 時間値	
2	宮田村大田切	西側	0.00019	0.006	0.00619	3	0. 0171	の1日平	
2		東側	0.00019	0.006	0.00619	3	0. 0171	均値が 0.04ppm	
3	宮田村大久保	西側	0.00052	0.005	0.00552	9	0. 0160	から から	
4	宮田村中越	西側	0.00009	0.005	0.00509	2	0. 0155	0.06ppm までのゾ	
_	伊那市下殿島	西側	0.00053	0.004	0.00507	10	0. 0146	ーン内又	
5	伊那川下殿局	東側	0.00041	0.004	0. 00481	9	0. 0144	はそれ以	
C	伊那市原新田	西側	0.00076	0.003	0.00376	20	0. 0133	下である こと。	
6	17 加川水利田	東側	0.00079	0.003	0. 00379	21	0. 0133	-	

注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日、環境庁告示第38号)による。

表 12.1.1-23(2) 自動車の走行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

(既存道路の影響を考慮した予測)

「単位:mg/m³]

				予測値(年	平均値)		日平均値		
番号	予測地点		道路寄与濃度	バックグ ラウンド 濃度	計	寄与率 (%) **	の年間 2% 除外値	環境基準	
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	東側	0.00002	0.012	0. 01202	0	0. 0327		
2	宮田村大田切	西側	0.00001	0.012	0. 01201	0	0. 0327		
2		東側	0.00001	0.012	0. 01201	0	0. 0327	1 時間値	
3	宮田村大久保	西側	0.00003	0.011	0. 01103	0	0. 0306	の1日平 均値が	
4	宮田村中越	西側	0.00001	0.011	0. 01101	0	0. 0306	の。10mg/m ³	
_	(4.117 七 T RN 自	西側	0.00002	0.010	0. 01005	0	0. 0285	以下であ	
5	伊那市下殿島	東側	0.00002	0.010	0. 01004	0	0. 0285	ること。	
C	伊那士匠 英田	西側	0.00003	0.011	0. 01103	0	0. 0306		
6	伊那市原新田	東側	0.00003	0.011	0. 01103	0	0. 0306		

※: 寄与率 0%は、0.5%未満を示す。

注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の地上1.5mにおける値である。

注2:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)による。

(5) 予測結果

二酸化窒素の年平均値は、0.0056~0.0123ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は、0.01023~0.01262mg/m³である。予測結果を表 12.1.4-8 (P12.1-88~89) に示す。

表 12.1.4-8(1)建設機械の稼働に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

[単位:ppm]

					予測値(年	三平均値)		日平均	建設機	
番号	予測地点	種別	ユニット	建設機 械寄与 濃度	バック グラウ ンド 濃度	計	寄与率 (%)	値の年 間 98% 値	械寄与 濃度の 参考値	環境 基準
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0063	0.006	0. 0123	51	0.024		1時間値
2	宮田村大田切	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0053	0.006	0. 0113	47	0.023		の1日平 均値が
3	宮田村大久保	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0032	0.005	0. 0082	39	0.019	0.004	0.04ppm から
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.0057	0.005	0. 0107	53	0. 022	ppm 以下	0.06ppm までのゾ ーン内又
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0031	0.004	0. 0071	44	0.017		はそれ以 下である
6	伊那市原新田	盛土工	盛土 (路体・路床)	0. 0026	0.003	0. 0056	46	0.015		こと。

注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。

注2:参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国 土技術政策総合研究所)に示されている建設機械の稼働に係る二酸化窒素の濃度の参考値である。

注3:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和53年7月11日、環境庁告示第38号) の環境 基準である。

注4:着色部分は、参考値の超過を示す。

表 12.1.4-8(2)建設機械の稼働に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

[単位:mg/m³]

				7	予測値(^左	F平均値)		日平 均値	建設	
番号	予測地点	種別	ユニット	建設機械寄与濃度	バクグ ラウド 濃度	計	寄与率 (%)	の 年間 2% 除外 値	機寄濃の考値	環境 基準
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	掘削工	土砂掘削	0.00062	0.012	0. 01262	5	0. 034		1時間値
2	宮田村大田切	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00050	0.012	0. 01250	4	0. 033		の1日 平均値が
3	宮田村大久保	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00026	0.011	0. 01126	2	0. 031	0.009	0.10mg/m³ 以下であ ることか
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.00051	0.011	0. 01151	4	0. 031	mg/m³ 以下	つ 1 時間 値が
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00023	0. 010	0. 01023	2	0. 029		0.20mg/m³ 以下であ
6	伊那市原新田	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.00018	0. 011	0. 01118	2	0. 031		ること。

注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。

注2:参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国 土技術政策総合研究所)に示されている建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質の濃度の参考値である。

注3:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)の環境 基準である。

表 12.1.4-11 (1)「排出ガス対策型建設機械の使用」による低減効果(二酸化窒素)

[単位:ppm]

				<u>-</u>	予測値(4	F平均値)		低減	効果	建設 機械
番号	予測地点	種別	ユニット	建設機械寄与濃度	バック グラウ ンド 濃度	1	寄与率 (%)		寄与率 (%)	寄与 濃 の 考値
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0028	0.006	0.0088	32	-0.0035	-28	
2	宮田村大田切	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0022	0.006	0.0082	27	-0.0030	-27	
3	宮田村大久保	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0012	0.005	0.0062	19	-0.0019	-24	0.004 ppm
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0. 0025	0.005	0. 0075	33	-0.0032	-30	以下
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0012	0.004	0.0052	23	-0.0019	-27	
6	伊那市原新田	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0010	0.003	0.0040	25	-0.0016	-29	

注:工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。

表 12.1.4-11(2)「排出ガス対策型建設機械の使用」による低減効果(浮遊粒子状物質)

[単位:mg/m³]

					予測値(年平均值》)	低減	効果	建設
番号	予測地点	種別	ユニット	建設機械寄生	バクランド 農	計	寄与率 (%)		寄与率 (%)	機 寄 濃 の 考 値
1	駒ヶ根市赤穂 (大田切)	掘削工	土砂掘削	0.0002	0.012	0. 0122	2	-0. 00039	-3	
2	宮田村大田切	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0002	0.012	0. 0122	2	-0.00031	-2	
3	宮田村大久保	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0001	0.011	0. 0111	1	-0.00016	-1	$\begin{array}{c} 0.009 \\ \text{mg/m}^3 \end{array}$
4	宮田村中越	掘削工	土砂掘削	0.0002	0.011	0. 0112	2	-0.00031	-3	以下
5	伊那市下殿島	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0001	0.010	0. 0101	1	-0.00014	-1	
6	伊那市原新田	盛土工	盛土 (路体・路床)	0.0001	0.011	0. 0111	1	-0.00011	-1	

注:工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。

(5) 予測結果

二酸化窒素の年平均値は 0.0032~0.0062ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は 0.01100~ 0.01201mg/m³である。予測結果を表 12.1.5-5 (P12.1-107~108) に示す。

表 12.1.5-5(1) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質の予測結果(二酸化窒素)

[単位:ppm]

			予測	値(年平均]値)		日平均	工事用車	
番号	予測地点	工事用 車両寄 与濃度	既存道 路の寄 与濃度	バック グラウ ンド濃 度	計	寄与率 (%) **	値の年 間 98% 値	両寄与濃 度の参考 値	環境 基準
A	宮田村 5284-3 地先	0.00002	0.00015	0.006	0. 0062	0	0.017		1時間 値の1
В	宮田村 5610-1 地先	0.00001	0.00017	0. 006	0. 0062	0	0.016		日平均 値が
С	宮田村 6747-5 地先	0.00002	0.00003	0.005	0.0050	0	0.016		0.04ppm
D	伊那市東春近 4838 地先	0. 00001	0.00009	0.005	0. 0051	0	0.014	0.004ppm 以下	から 0.06ppm
Е	伊那市東春近 8290 地先	0.00004	0.00016	0.003	0.0032	1	0.013		までの ゾーン
F	伊那市東春近 7637-8 地先	0.00003	0.00014	0.003	0.0032	1	0.013		内又は それ以 エエキ
G	伊那市美篶 10856 地先	0.00002	0.00039	0.003	0.0034	1	0.013		下であ ること

※: 寄与率 0%は、0.5%未満を示す。

- 注1: 工事用道路敷地境界の地上1.5m における値である。
- 注2: 工事用車両寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から新たに計画路線より付加される濃度を示す。
- 注3:既存道路の寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から付加される濃度を示す。
- 注4:バックグラウンド濃度は、予測地域の一般環境濃度を示す。
- 注5:参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)に示されている建設機械の稼働に係る二酸化窒素の濃度の参考値である。
- 注 6: 環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和 53 年 7 月 11 日、環境庁告示第 38 号) の 環境基準である。

表 12.1.5-5(2)資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質の予測結果(浮遊粒子状物質)

「単位: mg/m³]

								[十]二 :	0, 1
			予測値	(年平均	値)		日平均	工事用車	
番号	予測地点	工事用 車両寄 与濃度	既存道 路の寄 与濃度	バック グラウ ンド濃 度	計	寄与率 (%) **	値の年 間 2% 除外値 ※1	両寄与濃 度の参考 値 ^{※2}	環境 基準
A	宮田村 5284-3 地先	0.000001	0. 000009	0.012	0. 01201	0	0.033		1時間値
В	宮田村 5610-1 地先	0. 000001	0. 000009	0.012	0. 01201	0	0.031		の1日平 均値が
С	宮田村 6747-5 地先	0. 000002	0. 000002	0.011	0. 01100	0	0.031		0.10mg/m^3
D	伊那市東春近 4838 地先	0. 000001	0. 000004	0.011	0. 01100	0	0.029	0.009mg/m³ 以下	以下であり、かつ、
Е	伊那市東春近 8290 地先	0. 000002	0. 000005	0.011	0. 01101	0	0.031		1時間値が (3
F	伊那市東春近 7637-8 地先	0. 000001	0. 000005	0.011	0. 01101	0	0.031		0.20mg/m ³ 以下であ
G	伊那市美篶 10856 地先	0. 000001	0. 000013	0.011	0. 01101	0	0.031		ること。

※: 寄与率 0%は、0.5%未満を示す。

- 注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。
- 注2: 工事用車両寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から新たに計画路線より付加される濃度を示す。
- 注3:既存道路の寄与濃度は、予測地点に対する既存道路から付加される濃度を示す。
- 注4:バックグラウンド濃度は、予測地域の一般環境濃度を示す。
- 注5:参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」 (平成25年3月 国土技術政策総合研究所)に示されている建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質の濃度の参考値である。
- 注6:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)の環境基準である。

表 13.1(1)環境影響評価結果の総合的な評価

	T*Z	; _H											
環境要素			777-1-64-77		→ 2m.(/ L				atti lake (ra. A. I II. 1777 77 a soombe (fe 7177 da	The first to the second			
の大区分	環境要素	影響要因	調査結果		予測結	果			環境保全措置及び事後調査	評価結果			
	の区分	の区分											
大気質	二酸化窒	存在・供用	<二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	計画路線の予測線	吉果は、二i	酸化窒素の)年平均値は	ţ	<環境保全措置>	<回避又は低減に係る評価>			
	素	(自動車の	の濃度の状況(年平均値)>	0.00370~0.00616p	pm、浮遊粒	位子状物質	の年平均値	は	予測結果より、自動車の走行に係る二酸化	計画路線は道路の計画段階において、集落及び	市街地		
	浮遊粒子	走行)	二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	0.01002~0.01201m	g/m³である	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			窒素及び浮遊粒子状物質に関しては「二酸化	をできる限り回避した計画としており、住居等の	保全対		
	状物質		の濃度の状況(年平均値)の調査結果は以下	▲一般ルヴまのる近	#16+ 用 /∌l:	悪政領のス	· 3811 \		窒素に係る環境基準について」の環境基準及	象への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図	ってい		
			のとおりである。	●二酸化窒素の予測	別稲米(訂	四 始 稼 (ソ)	´側) [単位:p _]	.m.]	び「大気の汚染に係る環境基準について」の	る。このことから、環境影響は事業者の実行可能	な範囲		
					予測値(4	年平均値)		寄与	環境基準を下回ると考えられるため、環境保	内でできる限り回避又は低減されているものと言	評価す		
			●二酸化窒素の濃度の調査結果 [単位:ppm] 二酸化窒素	 予測地点	道路寄与	バックグ	計	新子 率	全措置の検討は行わないものとする。	る。			
			調査地点 一般化至系 (年平均値)		濃度	ラウンド 濃度		(%)					
			北の原いきいき交流センター (町四区北の原集落センター) 0.006	駒ヶ根市赤穂東側	0.00014	0.006	0. 00614	9	 <事後調査>	 <基準又は目標との整合性に係る評価>			
			大久保集落センター 0.005	(大田切)				2	 予測手法は、最新の科学的知見に基づいて				
			田原公民館 0.004	宮田村大田切 西側 0.00016 0.006 0.00616 3 設定さ		 設定されたものであり、予測の不確実性は小	 び浮遊粒子状物質の日平均値の年間2%除外値は3	全ての					
			原新田公民館 0.003	宮田村大久保 西側		0.005	0. 00551	9	 さいと考えられることから、事後調査は実施	 予測地点で基準値を下回っており、基準等との整	合は図		
				宮田村中越 西側		0.005	0.00509	2	しないこととする。	 られているものと評価する。			
			●浮遊粒子状物質の濃度の調査結果	伊那市下殿島 西側		0. 004 0. 004	0. 00453	12					
			[単位:mg/m³] 浮遊粒子状物質	東側		0.004	0. 00440 0. 00370	19			[]: ppm]		
			調査地点 (年平均値)	伊那市原新田東側		0.003	0. 00373	20		日平均値 予測地点 の年間 環境基準 :	評価		
			北の原いきいき交流センター (町四区北の原集落センター) 0.012	注1:計画路線及び既存		路寄与濃度	は、道路敷地境	野の		98%值	н і іші		
			大久保集落センター 0.011	注2:環境基準は、「二			注2:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭 年7月11日、環境庁告示第38号)による。		和53		駒ヶ根市赤穂 東側 0.0171		
			田原公民館 0.010	年7月11日、環境庁告示第38号)		年7月11日、環境庁告示第38号)による。		平7月11日、原現月百小寿30万)による。				(大田切) 東側 0.0171 1時間値の 1日平均値	
			原新田公民館 0.011	 ●浮遊粒子状物質の	の予測結果	(計画)路線	もの予測)			宮田村大田切 東側 0.0171 が 0.04ppm 世	準又は		
				●仔题框「伙伪真♡	> 1 1X1/10/N		「単位:mg/	m ³]		0.06ppm #	標との合が図		
					予測値(年平均値)		寄与			れてい		
				予測地点	道路寄与	バックグ ラウンド	計	率		伊那市下殿島 東側 0.0144 であるこ ³ 。			
					濃度	濃度		(%) *		伊那市原新田 西側 0.0132 と。			
				駒ヶ根市赤穂東側	0.00001	0. 012	0. 01201	0		東側 0.0133	/BTI € . = 0		
				(大田切)		0.010		0		注:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(年7月11日、環境庁告示第38号)による。	(昭和53		
				宮田村大田切 再側		0. 012 0. 012	0. 01201 0. 01201	0					
				宮田村大久保 西側		0. 011	0. 01103	0					
				宮田村中越 西側	0.00001	0.011	0. 01101	0					
				伊那市下殿島 西側		0.010	0. 01002	0					
				東側西側	-	0. 010 0. 011	0. 01002 0. 01102	0					
				伊那市原新田東側		0. 011	0. 01102	0					
				※: 寄与率0%は、0.5%未満を示す。 注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の 地上1.5mにおける値である。 注2:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48 年5月8日、環境庁告示第25号)による。									

表 13.1(2)環境影響評価結果の総合的な評価

7	項						
環境要素	環境要素	影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置及び事後調査	評価結果	
の大区分	の区分	の区分					
大気質	二酸化窒	存在・供用	<気象の状況(風向・風速の年間データ)>	既存道路の影響を考慮した予測結果は、二酸化窒素の		●浮遊粒子状物質の評価結果 [単位:	: mg/m ³]
	素	(自動車の	気象の状況(風向・風速の年間データ)の	 年平均値は0.00376~0.00654ppm、浮遊粒子状物質の年		日平均值	⇒π: /πr
	浮遊粒子	走行)	調査結果は以下のとおりである。	平均値は0.01004~0.01202mg/m³である。		予測地点 の年間2% 環境基準 除外値	評価
	状物質	,		3, 33		駒ヶ根市赤穂 (大田田) 東側 0.0327	
	,,,,,		●風向・風速の調査結果	●二酸化窒素の予測結果		(大田切) 1 時間値 西側 0 0327 (2.1 日 平	
			調査地点 最多風向 平均風速 (16方位) (m/s)	(既存道路の影響を考慮した予測) [単位:ppm] 予測値(年平均値) ポー		宮田村大田切 東側 0.0327 均値が ま	準又は
			北の原いきいき交流	予測地占 岩吸索片 バックグ 計 家	I⊨	宮田村大久保 西側 0.0306 U.10mg/m 以下であ 転	標との (合が図
			センター (町四区北の S 2.3 原集落センター)	漫度 ラウンド 微光 (%)	<u> 1</u>	宮田州 中越 四側 0.0306 り、がつ、 られ 5 和	れてい
			大久保集落センター N 2.3	駒ヶ根市表種		伊那市下殿島 西側 0.0285 1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であ	0
			田原公民館 S 2.3	(大田切) 東側 0.00054 0.006 0.00654 8		伊那市原新田 西側 0.0306 ること。	
			原新田公民館 SSW 2.3 伊那地域気象観測所 S 2.5	宮田村大田切 西側 0.00019 0.006 0.00619 3 東側 0.00019 0.006 0.00619 3		東側 0.0306	(1777 - 17
			[产加地域X(水衡便//)] 3 2. 3	東側 0.00019 0.006 0.00619 3 宮田村大久保 西側 0.00052 0.005 0.00552 9	73	注:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(年5月8日、環境庁告示第25号)による。	(昭和48
				宮田村中越 西側 0.00009 0.005 0.00509 2		●二酸化窒素の評価結果	
				伊那市下殿島 西側 0.00053 0.004 0.00507 10	_		立:ppm]
				東側 0.00041 0.004 0.00481 9 西側 0.00076 0.003 0.00376 20		日平均値 日平均値 予測地点 の年間 環境基準 語	評価
				伊那市原新田 東側 0.00079 0.003 0.00379 21		98%値	н г при
				注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の 地上1.5mにおける値である。		駒ヶ根市赤穂 (大田切) 東側 0.0175	
				注2:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53		西側 0.0171 1.9 収拾値	
				年7月11日、環境庁告示第38号)による。			準又は
				●浮遊粒子状物質の予測結果		'宮田村大久保 西側 0.0160 0.06nnm ± 目 전	標との :合が図
				(既存道路の影響を考慮した予測) [単位:mg/m³]		西側 0.0146 ン内又は 5.7	れてい
				予測値(年平均値) 寄与		伊那市下殿島 東側 0.0144 それ以下であるこ	3
				予測地点 道路寄与 パックク 計 率		伊那市原新田 西側 0.0133 と。	
				濃度 プリント (%) **	1	東側 0.0133 注:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」((昭和53
				駒ヶ根市赤穂 東側 0.00002 0.012 0.01202 0		年7月11日、環境庁告示第38号)による。	(
				西側 0 00001 0 012 0 01201 0		●浮遊粒子状物質の評価結果	/ 27
				宮田村大田切 東側 0.00001 0.012 0.01201 0	_	(既存道路の影響を考慮した予測) [単位: 日平均値	:mg/m ³]
				宮田村大久保 西側 0.00003 0.011 0.01103 0		予測地点 の年間2% 環境基準 調	評価
				宮田村中越 西側 0.00001 0.011 0.01101 0 西側 0.00002 0.010 0.01005 0		ります。	
				伊那市下殿島 東側 0.00002 0.010 0.01004 0		(大田切) 東側 0.0327 1時間値	
				伊那市原新田 西側 0.00003 0.011 0.01103 0		宮田村大田切 西側 0.0327 の1日平	
				東側 0.00003 0.011 0.01103 0 ※: 寄与率0%は、0.5%未満を示す。	-	大阪	準又は標との
				注1:計画路線及び既存道路からの道路寄与濃度は、道路敷地境界の 地上1.5mにおける値である。	I	宮田村中越 西側 0.0306 り、かつ、 たっ	合が図 れてい
				注2:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48		西側 0.0285 1 時間値か 3.02mg/m³ る。	
				年5月8日、環境庁告示第25号)による。	<u> </u>	東側 0.0285 以下であ	
					1	伊那市原新田 西側 0.0306 ること。 東側 0.0306	
					沒	注:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」((昭和48
						年5月8日、環境庁告示第25号)による。	

表 13.1(5)環境影響評価結果の総合的な評価

and the man de	項							
環境要素	環境要素	影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置及び事後調査	評価結果		
の大区分	の区分	の区分						
大気質	二酸化窒	工事の実施	<二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	予測結果は、二酸化窒素の年平均値が0.0056~	<環境保全措置>	<回避又は低減に係る評価>		
	素	(建設機械	 の濃度の状況(年平均値)>	 0.0123ppm、浮遊粒子状物質の年平均値が0.01023~	●環境保全措置の検討結果	計画路線は道路の計画段階において、集落及び市街地		
	浮遊粒子	の稼働)	 二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	0.01262mg/m³である。	実施主体 長野県	をできる限り回避した計画としており、住居等の保全対		
	 		 の濃度の状況(年平均値)は、「自動車の走		排出ガス対策型建設機械 実施内容 種類 が採用	│ 象への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図ってい │ る。また、環境保全措置として「排出ガス対策型建設機		
			行に係る大気質」に示すとおりである。	●二酸化窒素の予測結果 [単位:ppm]	大胆内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	械の採用」及び「作業方法への配慮」を実施することで、		
				予測地点 種別 建設機 年 <mark>寄与率</mark> 値の年 間98%値	排出ガス対策型建設機械 の採用により、二酸化窒 素及び浮遊粒子状物質が	環境負荷を低減している。このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価する。		
			<気象の状況(風向・風速の年間データ)> 気象の状況(風向・風速の年間データ)は、	駒ヶ根市赤穂 (大田切) 掘削工 0.0063 0.0123 51 0.024	抑制される。			
			「自動車の走行に係る大気質」に示すとおり	宮田村大田切 盛土工 0.0053 0.0113 47 0.023	効果への不確実性 なし 他の環境への影響 特になし	<基準又は目標との整合性に係る評価>		
			である。	宮田村大久保 盛土工 0.0032 0.0082 39 0.019	"	評価結果より、二酸化窒素の建設機械による寄与濃度		
				宮田村中越 掘削工 0.0057 0.0107 53 0.022	実施主体 長野県 作業方法への配慮	及び日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の建設機械 による寄与濃度及び日平均値の年間2%除外値は、全て		
				伊那市下殿島 盛土工 0.0031 0.0071 44 0.017	実施内容 位置 建設機械が稼働する場所	の予測地点で基準値を下回っており、基準等との整合は		
				伊那市原新田 盛土工 0.0026 0.0056 46 0.015	停車中の車両等のアイド	図られているものと評価する。		
				注1: 工事敷地境界 (道路敷地境界) 地上1.5mにおける値である。	リングを止める、建設機 械の複数同時稼働・高負			
				注2:着色部分は、参考値 (0.004ppm以下) の超過を示す。	環境保全措置の効果 荷運転を極力避ける等に	建設機械 日平均値 会表 環境 証		
					より、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の排出量あ	予測地点		
				●浮遊粒子状物質の予測結果 [単位:mg/m³]	るいは最大排出量の低減	駒ヶ根市赤穂 1時間値		
				建設機 年	が見込まれる。 効果への不確実性 なし	(大田切) 0.0028 0.020 宮田村大田切 0.0022 0.020 の1日平 基準 均値が 又は 0.04ppm 目標		
					他の環境への影響特になし			
				駒ヶ根市赤穂 掘削工 0.00062 0.01262 5 0.034		宮田村中越 0.0025 0.018 以下 までのゾーン内又 られ		
				宮田村大田切 盛土工 0.00050 0.01250 4 0.033	<事後調査>	伊那市下殿島 0.0012 0.015 伊那市原新田 0.0010 0.014		
				宮田村大久保 盛土工 0.00026 0.01126 2 0.031	予測手法は科学的知見に基づくものであ	注1: 工事敷地境界 (道路敷地境界) の地上1.5mにおける値である。		
				宮田村中越 掘削工 0.00051 0.01151 4 0.031	り、予測の不確実性は小さいと考えられる。	注2:参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合 研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)		
				伊那市下殿島 盛土工 0.00023 0.01023 2 0.029	また、採用した環境保全措置についても効果	である。 注3:環境基準は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53		
				伊那市原新田 盛土工 0.00018 0.01118 2 0.031	に係る知見が十分に把握されていると判断で	年7月11日、環境庁告示第38号)である。		
				注:工事敷地境界 (道路敷地境界) 地上1.5mにおける値である。	き、効果の不確実性は小さいと考えられるこ	●浮遊粒子状物質の評価結果 [単位:mg/m³]		
					とから、事後調査は実施しないものとする。	建設機械 日平均値の 年間2% 参考 値 環境 基準 評		
						駒ヶ根市赤穂 (大田切) 0.00024 0.033 1時間値の 1日平均値 基準 又は		
						宮田村大田切 0.00019 0.033 0.10mg/m³ 目標		
						宮田村大久保 0.00010 0.031 以下 以下 整合 が図 以下 り、かつ、1時間値が 1時間値が 1時間		
						伊那市下殿島 0.00009 0.029 0.029 0.20mg/m³ 以下であ てい		
						伊那市原新田 0.00007 0.031		
						注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)の地上1.5mにおける値である。 注2: 参考値は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)である。		
						注3:環境基準は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48 年5月8日、環境庁告示第25号)の環境基準である。		

表 13.1(6)環境影響評価結果の総合的な評価

	耳	〔 目									
環境要素	環境要素	影響要因	調査結果	予測結果			環境保全措置及び事後調査		評価結果		
の大区分				了 側桁未			塚児 大井 1	直及い事後剛直	计顺柏术		
	の区分	の区分									
大気質	二酸化窒	工事の実施	<二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	予測結果は、二酸化窒素の年平均値が0.0032~			<環境保全措置>		<回避又は低減に係る評価>		
	素	(資材及び	の濃度の状況(年平均値)・気象の状況(風	0.0071ppm、浮遊粒子状物質の年平均値が0.01100~			●環境保全措置の検討結果		計画路線は道路の計画段階において、集落及び市街地		
	浮遊粒子	機械の運搬	向・風速の年間データ)>	0.01205mg/m³である。			実施主体	長野県 工事用車両の分散	をできる限り回避した計画としており、住居等の保全対		
	状物質	に用いる車	二酸化窒素 (NO ₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM)	 ●二酸化窒素の予測結果			実施内容 位置	工事用車両が通行する道	象への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図ってい		
		両の運行)	の濃度の状況(年平均値)及び気象の状況(風	工事用車両 年 <mark>寄与率</mark> 日平均値の		11/10	路工事甲書事まれれるよう	る。また、環境保全措置として「工事用車両の分散」を			
			向・風速の年間データ)は、「自動車の走行	予測地点	寄与濃度	平均値	(%) *	年間98%値		工事用車両を分散させる ことにより、二酸化窒素	実施することで環境負荷を低減している。このことか
			に係る大気質」に示すとおりである。	宮田村 5284-3 地先	0.00002	0.0062	0	0. 017	環境保全措置の効果	及び浮遊粒子状物質の最 大濃度の低減が見込まれ	ら、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り
				宮田村 5610-1 地先	0.00001	0.0062	0	0. 016	効果への不確実性	る。 なし	回避又は低減されているものと評価する。
				宮田村 6747-5 地先	0. 00002	0.0050	0	0. 016	他の環境への影響	騒音、振動への影響が緩 和される。	<基準又は目標との整合性に係る評価>
				伊那市東春近 4838 地先	0.00001	0. 0051	0	0. 014		1HC4V-20	評価結果より、二酸化窒素の工事用車両の運行による
				伊那市東春近 8290 地先	0.00004	0. 0032	1	0. 013	<事後調査>		寄与濃度及び日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の
				伊那市東春近 7637-8 地先	0.00003	0.0032	1	0. 013		知見に基づくものであ	工事用車両の運行による寄与濃度及び日平均値の年間
				伊那市美篶	0. 00002	0.0034	1	0. 013		は小さいと考えられる。 保全措置についても効果	2%除外値は、全ての予測地点で基準値を下回っており、 基準等との整合は図られているものと評価する。
				10856 地先 ※: 寄与率0%は、(). 5%未満を示す					R 主相直に リン・くも 効果 把握されていると判断で	医中寺との歪りは囚り40CVでものと計画する。
				注1: 工事敷地境界 (道路敷地境界) 地上1.5mにおける値である。							
				社2: 工事用単阿奇号振及は、予側地点に対する既任道路から新たに 計画路線より付加される濃度を示す。				は小さいと考えられるこ 実施しないものとする。			
							こかり、事仮嗣且は	天旭 ひないものとりる。			
				●浮遊粒子状物	7負の予測結	i朱 ———	L.E	単位:mg/m³] 日平均値の			
				予測地点	工事用車両 寄与濃度	年 平均値	寄与率 (%) **	年間2% 除外値			
				宮田村 5284-3 地先	0. 000001	0. 01201	0	0.033			
				宮田村	0.000001	0. 01201	0	0.031			
				5610-1 地先 宮田村		0.01201	•				
				6747-5 地先	0. 000002	0.01100	0	0.031			
				伊那市東春近 4838 地先	0.000001	0.01100	0	0.029			
				伊那市東春近 8290 地先	0.000002	0. 01101	0	0.031			
				伊那市東春近 7637-8 地先	0. 000001	0. 01101	0	0.031			
				伊那市美篶 10856 地先	0.000001	0. 01101	0	0.031			
				※: 寄与率0%は、							
				注1:工事敷地境界 注2:工事用車両告							
				計画路線より	付加される濃原	度を示す。					

表 13.1(7)環境影響評価結果の総合的な評価

~ 14 - 14	項目								
環境要素の大豆ハ	環境要素	影響要因	調査結果	予測結果	環境保全措置及び事後調査	評価結果			
の大区分	の区分	の区分							
大気質	二酸化窒	工事の実施				●二酸化窒素の評価結果 [単位:ppm]			
	素	(資材及び				工事用車 日平均値 寄与 予測地点 の中間 率 変 環境 基準			
	浮遊粒子	機械の運搬				(辰) 90% (N) T			
	状物質	に用いる車				宮田村 5284-3 地先 0.00002 0.017 0			
		両の運行)				宮田村 5610-1 地先 0.00001 0.016 0 1時間 値の1 日平均 は201			
						宮田村 0,00002 0,016 0 値が 気は			
						6/4/-5 地先			
						4838 地先 以下 が図 が が が が			
						8290 地先 0.00004 0.013 1 はそれ てい			
						7637-8 地先 0.00003 0.013 1 あるこ			
						伊那市美篶 10856 地先 0.00002 0.013 1			
						 ※: 寄与率0%は、0.5%未満を示す。 注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。 注2: 参考値とは、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)の参考値である。 注3: 環境基準とは、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月11日、環境庁告示第38号)の環境基準である。 ●浮遊粒子状物質の評価結果 事用車 日平均値 高与 の年間2% 率 億 基準 原外値 (%)※ 値 基準 宮田村 5284-3 地先 0.000001 0.033 0 1時間値の1 日平均 値が 宮田村 50.000001 0.031 0 日平均 値が 			
						宮田村 6747-5 地先 伊那市東春近 4838 地先 伊那市東春近 8290 地先 伊那市東春近 7637-8 地先 伊那市美篶 10856 地先 0.000001 0.029 0 0 mg/m³以下であり、かっ、1時間値がの.20mg/m³以下であり、かっ、1時間値がの.20mg/m³以下である。0.20mg/m³以下であること。			
						※: 寄与率0%は、0.5%未満を示す。 注1: 工事敷地境界(道路敷地境界)地上1.5mにおける値である。 注2: 参考値とは、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)の参考値である。 注3: 環境基準とは「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月8日、環境庁告示第25号)の環境基準である。			